

授業科目 基礎社会学特論 (地域社会学特論・家族社会学特論)	科目概要・形式 4単位60時間(30コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 前期開講	オンライン参加 <input type="checkbox"/> 可・不可
科目責任者	松崎 良美		
担当者	平川 毅彦 (非常勤)、松崎 良美		
1. 科目のねらい・目標			
<p>平川 毅彦 (地域社会学特論) 15 コマ 「地域社会」および「コミュニティ」という考え方の形成プロセス・議論をたどり、これらの社会学的意味を明らかにしたうえで、(1) 望ましい地域社会としての「地域コミュニティ」、(2) 生活上の課題を抱えた個人を支える「福祉コミュニティ」、という二本の柱から地域社会の意義と課題について、動画事例等をもとに検討する。</p> <p>松崎 良美 (家族社会学特論) 15 コマ 家族とは、ある意味で「社会」の最小単位として位置づけることができる。人々の生活の現場であり、自分以外の他者の存在と共生していく現場でもある。家族は地域を構成するものとしても位置付けられ、地域社会からの観点も欠かすことができない。と同時に、家族という小さな社会がどのように運営されているのかに目を向けると、性役割・ジェンダーに関する知識・理解も不可欠だ。社会経済的な時代的要請からドラスティックな変容を迫られてきた現場でもある。社会学的視点に立ちながら「家族」をめぐる課題を整理し、議論していくことを目指す。</p>			
2. 授業計画・内容			
<p>(地域社会学特論)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 地域社会についての社会学的理解 3. 戦後町内会を巡る議論と都市コミュニティ論 4. 都市空間と地域社会 5. 地域社会「解体」の原因と結果 6. 地域社会「解体」と下位文化論 7. 社会福祉から見た地域社会1：生活問題発生の場合 8. 社会福祉から見た地域社会2：生活の主體的側面と地域社会 9. 「福祉コミュニティ」の考え方 10. 「福祉コミュニティ」の源流：仙台市における生活圏拡張運動と「福祉のまちづくり」 11. 「福祉コミュニティ」の展開：愛知県知多半島地域における定年退職者の生活史と地域社会 12. 「福祉コミュニティ」形成とその意義：愛知県岡崎市における重度身体障害者の生活史と地域社会 13. 「社会的排除」の場としての地域社会 14. 「地域共生社会」の実現に向けて 15. まとめ <p>(家族社会学特論)</p> <p>【とりあげる主なテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計情報から見る「家族」 家族とは何か、社会経済的状況によってどのような変遷をたどってきたのか、さまざまな調査・統計データを通じて、まずは考えていきたいと思います。「家族」をめぐる基本的な概念とともに、どのような調査・統計データを通じて考えていくことができるのかを、数回にわたってみていきます。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 家族とは何か／家族の構成 (2) 住まい、結婚、妊娠 (3) 家族調査 2. 社会問題を通じてみえてくる「家族」 家族内での性役割や暴力の問題、介護などなど、家族という日常の舞台を通じてさまざまな社会問題が提起されてもきています。どのような論点が、どのように論じられているのか、複数のトピックスをそれ 			

<p>ぞれ概観していきます。</p> <p>(1) 家族の役割、ジェンダー、育メン</p> <p>(2) 暴力、依存、ヤングケアラー</p> <p>(3) 介護、出産、家族のライフイベントと医療化</p> <p>3. 家族の意味・意義</p> <p>1, 2を通じて、改めて家族という小さな社会が果たす意味や意義、そこでどのような変容が求められ、まさに今変化しようとしているのか、里子やステップファミリーなど、家族という言葉が持つ範囲を改めて捉え直し、「家族」という場や空間にどのように関わっていきうるのか、複数の論点を通じて考えていきたいと思います。</p> <p>(1) 多様な形態の家族—里子、ステップファミリー</p> <p>(2) 社会構造との連動</p> <p>(3) セーフティネットとしての役割、紐帯、コミュニティ</p> <p>第一講目はオリエンテーションとし、各トピックスを話題提供（3コマ）＋ディスカッション（1コマ）を経て進行していくことを予定する。第14講で全体のまとめ・振り返りを行い、第15講目で全体を通じてのディスカッションを実施する。</p>
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>(地域社会学特論)</p> <p>教科書</p> <p>平川毅彦『地域社会を調査するということ—地域社会／地域福祉調査法』現代図書、2023年、ISBN978-4-434-31426-1</p> <p>参考書</p> <p>平川毅彦『社会関係の主體的側面と福祉コミュニティ』ブイツーソリューション、2017年、ISBN978-4-434-23367-8（電子書籍版）。</p> <p>※ 指定した「教科書」は授業開始時まで各自購入し、受講時に持参してください。講義の大半はテキストに記された内容を中心にすすめ、テキストの読み合わせも行います。</p> <p>(家族社会学特論)</p> <p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>岩間暁子、大和礼子、田間泰子『問いからはじめる家族社会学 — 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣、2015年、ISBN 978-4-641-15016-4</p> <p>宮本常一『家郷の訓』岩波書店、1984年、ISBN 978-4003316429</p>
<p>4. 成績評価方法</p> <p>(地域社会学特論) 50%</p> <p>毎回の講義時におけるディスカッション内容及びまとめとして作成された課題とそのプレゼンテーション内容をもとに総合的に評価する。</p> <p>(家族社会学特論) 50%</p> <p>授業への参加態度（15%）およびレポート（35%）などにより総合的に評価する。</p>
<p>5. 受講要件</p> <p>特になし。</p>
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>集中講義による開講を予定していますが、受講生の状況を勘案してオンライン参加による毎週ないし隔週開講も可能です。</p>
<p>7. その他</p> <p>ディスカッション形式を多く含むことから、オンデマンドは実施しません。</p>